

# 子どもたちの社会性を育むために

～幼児期における社会性の基礎づくりを小・中学校につなぐ～

生涯にわたる社会性の基礎を培うことは、『人とのかかわりを深める』という内容で幼稚園教育要領に幼稚園教育要領にも示され、友だちの気持ちや立場を考えて自己統制していく力の育成にかかる教育が、園での集団生活をとおしてすでに始まっています。

小・中学校でも、全教育活動において社会性を育む取組が行われていますが、子どもが「人とかかわる喜び」を実感するためには、日常の関わりの中で生じるハードルやトラブルこそをチャンスとしてとらえ、学びへと転化させていく教師の働きかけがとても大切です。

幼・小・中と連続している子どもに、それぞれの発達段階でかかわる指導者が社会性の育みの視点においてつながった教育を展開していくことが必要です。



明確なねらいをもって  
多様なかかわり合いの  
機会や場を与える

認められることで  
育まれる自己有用感

社会性の形成へ



## 園ではどのような活動が社会性の基礎を形作る効果を生んでいますか？

### 園では異年齢交流活動が主流です。

栽培活動、製作活動、  
きょうだい散歩、  
クッキング、コーナー  
遊び等の場で・・・

活動内容、方法等は実に様々ですが、どの園も共通して、「子供の変容を保育者が認め、広げる」という姿勢を持ち、自己有用感を育成しています。そして継続的に取り組むことで異年齢交流活動の効果을上げています。中でも活動の核となる年長児の様子を具体的に言葉にし、かかわる多くの保育者が認め、褒めていこうという共通理解が図られています。教師の一言で、年長児が自分の役立ち感や必要とされていることへの満足感を持ち、そのことが異年齢交流活動活性化の原動力となっていくます。

### 片付けに時間がかかる年少さんのそばに行き

「一緒にすると早く終わるからね」と語りかけ、あっという間に終了

**自己有用感 UP!**

「ありがとう」  
「助かったよ」「やさしいね」  
「〇〇ちゃん喜んでたよ」  
「しっかりしてるね」

もっとやりたい  
わたしってすごいかも？  
役に立って気持ちいいな

おねえちゃん大好き  
ほくも大きくなったら・・・

そんな年長の姿に憧れて下の子どもも育つ

## 効果を上げる異年齢交流活動のポイント

1. 子どもたちが進んで「やりたい」と思う活動を設定する。(頻度、期間を考慮)
2. 交流活動をリードする年長児が見通しを持ち、主体的に取り組める活動を選択する。(十分な準備の時間の確保、振り返りの時間をとり自信へつなげる)
3. 保育者自身が「子ども同士がかかわり合う喜び」を感じ取らせるねらいであることを共通理解する。

